回遊性のある「まちなか観光」への新たな提案

上信越高原国立自然公園の山並みに囲まれ、雄大な千曲川がゆったり流れる飯山市は、信州の中でも特に自然豊な地です。また白隠禅師ゆかりの正受庵や、島崎藤村の『破戒』のモデルになた真宗寺などの寺町が、飯山城を中心に形成され、飯山の歴史・文化を今に伝えています。

飯山市は、*回遊性のある「まちなか観光」*を目指し、これらの観光資源を活用した、魅力的なまちづくりをすすめてこられました。

①観光の核を磨く（「ふるさと感」の創出）

・　正受庵を中心とした寺町、高橋まゆみ人形館、飯山美術館等の充実

・　寺めぐり遊歩道整備

・　飯山城公園の整備

②修景によるまちづくり（町並み）

・　新幹線飯山駅、雪と寺の町シンボル広場、飯山城址公園等の整備

等など

我々の提案は飯山市がこれまですすめてこられたまちづくりに芸術的な付加価値を付け加えられないかと云うものです。

③アートがまちにやってきた（新たな提案）

高橋まゆみ人形館は飯山市の観光拠点になっています。愛くるしい老夫婦の人形は、忘れ去られていた日本の***ふるさと***を感じさせてくれます。市街を歩くと、店先にこれらの人形が飾られているのを見ることができます。高橋まゆみさんと地元の人との心温まる物語がそこにあります。人形がある風景は飯山の町をよりいっそう魅力的にしているといえます。

田窪恭治は大学在学中より、多くの作品を世に問い、話題をあつめてきました。国内にとどまらず、その活躍の舞台を海外にまで広げています。１９８９年から１０年間フランスのノルマンディ地方に移り住み、廃墟と化していた１６世紀の礼拝堂を見事に復活させます。この試みは美術界にとどまらず建築界に多くの波紋を広げました。この作品は建築家の権威ある賞「村野藤吾賞」を受賞します。その他に田窪はフランス共和国芸術文化勲章オフィシエを受章し、「りんごの礼拝堂」はミシュランのガイドブックにも掲載されています。

彼の目指す「風景芸術」はその後１０年間四国のこんぴらさん（金刀比羅宮）で更に展開していきます。香川県の観光拠点である金刀比羅宮で取組まれた創作活動は、「琴平山再生計画」として名づけられ、社殿整備、資生堂パーラーのレストランの建設、文化施設の整備や、国内外の各種展覧会の企画･運営等その活動は多岐にわたります。（２０００―０９琴平山再生計画に詳しく掲載）これらの活動を通じて金刀比羅宮の魅力を余すことなく世間に知らしめ、（香川県の観光を牽引し、）香川県の観光の拠点として来場者数を伸ばし

ていきました。
飯山市が進めてこられたまちづくりの方向性に飯山にゆかりのある作家や内外で活躍するアーティストたちのアートの力を借りて、飯山市の豊な観光資源を引立たせ、魅力的で賑わいのある観光のまちを目指せないかと考えています。

教会前広場計画――「感覚細胞」

田窪恭治の作品に、割石を型にした１０cm×１０cmの鋳鉄のピースを並べた「感覚細胞」と名づけられたものがあります。「感覚細胞」はフランスの「林檎の礼拝堂」プロジェクトのころから構想されていたもので、後に広島現代美術館（黒川紀章）、牧野富太郎記念館（内藤廣）で作品化されました。金刀比羅宮の一連の施設にも用いられ、東京現代美術館で2011年に行なわれた展覧会「田窪恭治展　風景芸術」は厚さ25㎜のコルテン鋼と〇〇個の「感覚細胞」のパーツが展示会場に敷詰められました。これらの作品は大原美術館を巡回し、箱根彫刻の森美術館に常設展示されています。
大原美術館柳沢秀行氏は次のように述べています。
「田窪はアーティストとしての歩みの始めから、なにげない日常と地続きのものとして風景を立ち上げてきた。作家の作為を見せ付けるというよりも、既存の姿に相応の強い働きかけをしながらも、あくまでも風景が静かに目の前に現れてくるようなたたずまいを好んできた。」
そして
*「田窪の数々の経験と、倉敷の街に対する時間をかけた丁寧な洞察がうかがえよう。田窪の添えた鉄素材の作品たちがこうして既存の景観に巧に親和している様子は、私にとって現状保存だけではなく、こうした批判的な景観への取り組み方もあることを改めて教えてくれた。」*としめくくっています。
「教会前広場」と「雪と寺のまちシンボル広場」の計画案は新たな田窪恭治の作品「感覚細胞2014」として提案するものです。

教会前広場計画――蔵のある風景

立教大学

飯山は『雪国の小京都』といわれ、神社仏閣が今も多く残っています。豊だった町を象徴するように土蔵も多く残っており、これら伝統的建造物郡が飯山のまちを魅力的なものにしています。

→1972年に今の建物ができた。

ここで提案するのは1895年に創建された教会と、日本の伝統的な蔵が取囲む広場です。飯山市が目指す回遊性のある「まちなか観光」において、3時間の『歩くミニツアールート』から〇〇時間の『寺めぐりルート』を想定すると、そのルートの中核に「食」を楽しむオープンなスペースは欠かせません。この蔵のある風景を活用した広場は飯山の「食」の文化を伝える観光拠点として、例えば多目的に利用されるオープンスペース、オープンカフェ、地場の農産物を売るマルシェ、蔵を利用したショップ、レストラン等、仲町通りと連携した賑わいのある広場の整備を提案するものです。